

「精一杯」酒造り励む 銀座、福島、山口交流会

田植えで絆強める

福島市荒井の水田で二十日に開かれた「銀座×福島×山口 日本酒造り交流会」は、好天のもと参加者が田植えを通し絆を強めた。

田植えの前のセレモニーで、NPO法人銀座ミツバチプロジェクトの田中淳夫理事長が



木幡市長に浄財を手渡す永山社長（右）

寄せた。木幡浩福島市長は日本酒の名前が



田植えを楽しむ木幡市長（右から3人目）ら参加者

「精一杯」であること
を踏まえ「今年は戊辰
戦争から百五十年。精
一杯」お酒をつくり、
絆を強め、福島復興の

のろしを上げたい」と
語った。亀岡偉民衆院
議員があいさつした。

山口県の山陽小野田地酒の会の永山純一郎
永山酒造社長がイベン
トを通して寄せられた
浄財を木幡市長に手渡
した。田植えには銀座
ミツバチプロジェクト
の白坂亜紀理事、JA
ふくしま未来の菅野孝
志組合長、土湯女将美
湯の会のメンバー、西
信中の生徒らも参加し
た。

酒米の田植え後、荒
井集会所で昼食交流会
を開き、関係者が田植
えの労をねぎらいなが
ら、懇親を深めた。